



# News Letter

9

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | ----- | ニュースレター |

Greeting

## 都市間競争を通じた地方創生を

昭和女子大学現代ビジネス研究所  
所長 八代 尚宏

日本の人口は2008年の12800万人をピークに減少している。これが2050年頃には1億人を下回り、2100年には6000万人と現在の半分以下の水準にまで減少する。そうしたなかで「東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけることで日本全体の活性化」が、政府の「地方創生策」とされている。まもなく国会に提出される、地方大学保護のための東京23区の大学定員抑制策は、その典型的な例である。

しかし、減少する日本の人口が大都市に集中し、サービス産業の生産性を高めるといふ市場の潮流に政府が歯止めをかけることで、なぜ日本を活性化できるのだろうか。むしろ「地方都市の活性化で地域の人口減に歯止めをかけ、結果的に東京一極集中が是正」といふのが本来のシナリオであろう。

過去の人口増加時代には、食料増産のために森林を切り開き農地としてきた。今後の人口減少時代には、中山間地は山林に戻し、平野での農業の大規模化という正反対の政策が必要となる。また、地方の限られた人口が、その中核都市に集住することで都市の規模の利益が生まれる。福岡や名古屋のような魅力的な都市を増やし、互いに切磋琢磨する「都市間競争」の促進が、日本活性化の本来のシナリオといえる。このためのアイデアを考えることが現代ビジネス研究所の目標といえる。

Project

## 教員主導型学生プロジェクトの認定開始

現代ビジネス研究所では、これまで主に研究員の独自研究を中心として、学生との共同研究活動を支援してきましたが、2017年度より、主に外部団体とコラボレーションした教員主導型の学生プロジェクトについても、研究所として認定することになりました。

今年度実施されたプロジェクトは以下の通りです。

### 現代ビジネス研究所認定 教員主導型プロジェクト

実施期間	プロジェクト名	概要	協働団体	担当教員
2017年4月 ～2018年3月	沖縄ファミリーマート ×昭和女子大学 プロジェクト	「東京の女子大学生が沖縄の隠れた食材を探し出し、それを商品化する」ことを目的として実施。学生が考案したパスタ、スイーツ、おにぎりの各商品は、沖縄ファミリーマート約320店舗で2017年11月から12月に販売された。	株式会社 沖縄ファミリーマート	高木 俊雄 小森 亜紀子
2017年7月 ～2018年3月	株式会社マックス ×昭和女子大学 プロジェクト	マックスのデジタル・マーケティングサイト「ハローデコクラブ」の企画運営を本学学生とマックスマーケティング部が共同で実施。	株式会社マックス	高木 俊雄 小森 亜紀子
2017年10月 ～継続中	株式会社三恵 ×昭和女子大学 プロジェクト	小学4～6年生女子児童をターゲットとした「ファーストプラ」の企画・販売。購買者層のニーズを調査して、商品コンセプトおよびデザインを提案し、試作・修正を経て、2018年度8月末の販売を目指す。	株式会社三恵	高木 俊雄 石垣 理子
2017年10月 ～11月	Business in English セッション	ポスト昭和で海外ビジネス授業を経験してきた学生を対象として、ビジネスに関連した授業を英語で実施。グローバルなビジネスへの興味と英語コミュニケーション能力の維持を図った。	—	前田 純弘 研究員:太田 行信
2017年10月 ～2018年3月	Christian Dior ワークショップ	女子学生向けのキャリア支援ワークショップ "Women@Dior for Showa Women's University" を実施。本ワークショップ独自の企画として、昭和女子大学学生によるショップ体験報告、インスタグラムコンテストを提案した。	クリスチャンディオール 株式会社	浅田 裕子
2017年11月	ガールズバンド ミュージックビデオ 制作プロジェクト	ガールズバンドのミュージックビデオ制作に、学生がスタッフとして打ち合わせから当日の撮影まで参加。撮影現場に触れる機会を持つとともに、監督、カメラ、照明などの各パートがチームワークとして一つの作品を作成するまでのクリエイティブな体験をした。	株式会社 リクルートマーケティング パートナーズ	小森 亜紀子
2018年2月 ～継続中	「女子大生が恋する!」 井の頭線 プロジェクト	井の頭線の渋谷・吉祥寺を除く15駅を対象として、モノ消費ではなくコト消費の仕掛けを構築し、PR活動に留まらない、継続性のある「まちとつながり」「人を動かす」仕掛けづくりを行う。	京王電鉄株式会社	高木 俊雄 小森 亜紀子

## 「日本で活躍する企業のダイバーシティの取り組み」

### 第1部:<講演>

#### 「我が国の男女共同参画／ダイバーシティに関する取り組み」

内閣府 男女共同参画局推進課長 田平浩二氏

#### 「JWLN(Japan Women's Leadership Network)の取り組み」

日本マクドナルド株式会社

直営本部神奈川西・北陸エリアオペレーションマネジャー 吉田真友子氏

人事部 フィールドHR部コンサルタント 渡辺牧江氏

#### 「ダイバーシティ推進は やめられない、とまらない。」

カルビー株式会社 人事総務本部ダイバーシティ委員会委員長 新谷英子氏

#### 「ダイバーシティ推進機構会員企業の取り組み」

城南信用金庫 総務部次席調査役 佐藤隆美氏

株式会社SMBC信託銀行

オペレーション推進部オペレーション指導課長 見田愛子氏

### 第2部:<パネルディスカッション>

ファシリテーター:ビジネスデザイン学科 高木俊雄准教授

### 第3部:<交流会>

本シンポジウムの趣旨は、これまで企業においてマイノリティ(例えば女性)と言われてきた人々の雇用は、単に人手不足解消のために行われるのではなく、むしろその価値観、知識、経験の多様性から企業の更なる発展、すなわちイノベーションを促進するためにも必要であり、こうしたダイバーシティを積極的に受け入れ、活かしてきた企業、それを促進してきた内閣府の方々にお話を伺い、さらに、参加者を含めたディスカッションを行うことによって今後の発展の契機にしようとするものである。

内閣府男女共同参画局の田平課長から、「我が国の男女共同参画・ダイバーシティに関する取組」と題して、多様性に溢れた組織でイノベーションが起こる理由、我が国の女性活躍の現状、女性活躍推進の必要性、政府の取組みについて説明していただいた。

次に、先駆的企業4社、促進してきた政策担当者5名による具体的な取組みと課題等に関して講演していただいた。各社に共通していたのは、ダイバーシティ推進においては「トップマネジメントのコミットメント」、「社内の意識改革」が重要であるということであった。

最後に、本学グローバルビジネス学部高木俊雄先生のコーディネートによるフロアの企業人・学生・教員等、参加者全員のグループディスカッションが行われ、自己体験の報告と討議が行われた。参加者全員、まさに「自分事として考え」「腑に落ちる経験」をして、本シンポジウムは成功裏に終了した。

参加者のダイバーシティに関する熱い想いは冷めやらず、その後、隣室に場所を変えて懇親会の場でも活発な意見交換が行われた。坂東理事長が、冒頭のご挨拶で、「ダイバーシティ推進に際しては、女性自身の意識改革も必要ですが、それ以上に男性の意識改革が必要です。」と切り出された。名言である。私も、「企業革新」や「地域革新」のイノベーターは、「よそ者・ばか者・若者・そして女性」と主張してきたが、今回のシンポジウムを通じて、改革が必要とされ多数を占める「内部者・一般人・シニア・そして男性」とイノベーターとの表裏一体となった意識改革の必要性を再認識した。また、ダイバーシティの成果の評価指標についても、収益指標に加えて新たなものが必要だと思った。(文責:研究員 熊坂敏彦)



## 「日本の未来を拓く“健康経営”」

### 第1部:<講演>

「健康経営の推進ーWell-Beingの実現に向けてー」

経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括調整官兼  
内閣官房 健康・医療戦略室 次長 江崎禎英氏

### 第2部:<トークセッション>

株式会社ルネサンス 代表取締役会長 齋藤敏一氏  
昭和女子大学 坂東真理子 理事長・総長

### 第3部:<ディスカッション>

「日本の未来を拓く“健康経営”」

パネリスト:江崎禎英氏、齋藤敏一氏  
モデレーター:坂東真理子 理事長・総長

第1部は、経済産業省の江崎禎英氏より、健康経営についてWell-Beingの視点からご講演いただいた。「24時間働けますか?」という80年代を代表する働き方を表現したCMの紹介を通して、Well-Beingの概念が時代とともに変化していること、そして、「経営」と「健康」は相反する概念のようではあるが、WLBやダイバーシティを標榜する現代では、メンタルヘルス促進と利益の追求は相反する概念ではないことが示された。

こうしたことから、経済産業省と東京証券取引所との共同で、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業を「健康経営銘柄」として公表することによって、企業の健康経営の取組が株式市場等において、適切に評価される仕組みづくりに取り組んでいることの紹介があった。就活の際には参考にしたいとアドバイスがあった。

最後に、「人は、半径30メートル以内の人間関係の中で生きている」ことを強調し、半径5メートル以内の人間関係が良好なら、艱難辛苦にも人は喜んで立ち向かう（逆も「真」なり）ことを挙げ、健康経営の最大の武器は、上司がリスクテイクすることであると締めくくられた。

第2部のトークセッションでは、「健康経営とは投資である」とした、日本の未来を拓く視点で、(株)ルネサンスの齋藤敏一氏から創業当時の人財開発の実践と最近の健康経営の実際について語られた。

第3部では、健康経営に多大なる影響がある上司について、3氏からリーダー談義を聴くことができた。「何においても上司の責任が7割と考える」、「上司自身がハッピーを表す、つまり、上司になったら苦しそうな顔をしなさい」、「ダメ上司の共通項は、『ありがとう』、『ごめんなさい』が言えないこと」など、現場レベルの貴重なエピソードを聴くことができた。

(文責: 研究員 渡邊祐子)



## 助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために、優れた研究に対して研究経費の一部を助成しています。研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めている研究もあります。各プロジェクトチームには本学教員がアドバイザーとして参加し、学生は豊富な実務経験を持つ研究員と協力しながら、実践的な学びを深めています。

今年度の活動報告は2017年度現代ビジネス研究所紀要として現代ビジネス研究所のホームページで公開しており、4月14日には報告会を開催します。

### 2017年度研究助成金採択プロジェクト

研究員	研究プロジェクト
青山 大蔵	ソーシャル・ベンチャーにおける女性起業家のリーダーシップ醸成プロセスに関する研究
新井 卓二	健康経営のリクルート効果について調査研究
井沼 一	高齢者ビジネスにおけるコト消費空間について —なないろクッキングスタジオを題材に—
江口 智子	コミュニティビジネスのイノベーション戦略 —山梨県のワイナリーにおけるテイスティングルームマネジメント—
大嶋 淳俊	東北復興支援のためのPBL手法による観光促進に関する研究 —いわき湯本温泉の活性化—
熊坂 敏彦	「地場産業」を中核にした「地域創生」についての研究 —「循環型地場産業」の事例研究—
甲賀 聖士	ソーシャルビジネスにおける女性参画の実態と「ジェンダー意識」「社会貢献意識」に関する研究(第2年次) —就業前世代の女子大学生に対する意識調査からの考察—
鈴木 宏幸 (共同研究)	インバウンドビジネスにおける成功要因の考察 —日越間のケース—
澄田 知子	若者の政治参加促進に向けた取り組みの現状と課題
段谷 憲 (共同研究)	大規模震災発生時のための食料備蓄と非常食レシピに関する防災教育教材開発に関する研究
鶴沢 真	フリマアプリのマーケットデザイン —フリマアプリ(メルカリやフリル)での買い物行動に関するアンケート調査—
西村 美奈子 (共同研究)	企業に働くマチュア世代の女性のセカンドキャリア意識調査とニーズ分析研究(第2年次)
村井 知光	企業と非営利組織のパートナーシップ戦略に関する研究 —価値観や成り立ちの異なる組織や個人はどのように協働して共通の目標を達成するのか—
柳川 伸二	昭和女子大学生の国際協力に関する意識調査(第4年次) —「グローバル人材」の育成に向けた現状と課題—

## 2017年度 研究員の活動状況

研究員、特別研究員の皆さまには、研究所のイベント以外にも、大学の様々な活動にご協力いただいています。

- 2017年度前期および後期授業に外部講師として参加  
新井卓二、池田清華、遠藤佳代子、大本郁子、古田土俊男、  
崔真淑、齋藤訓之、鈴木清江、竹中哲也、段谷憲、宮脇啓透
- 学生のインターンシップ先の紹介  
青山大蔵、新井卓二、熊坂敏彦、山口理栄
- その他学内活動への協力  
＜リーダーズアカデミー ファシリテーター＞  
市村のぼる、江口智子、前田益司郎、山野浩  
＜キャリアママインターンシップ マナー講師＞  
鈴木清江  
＜産学連携ダイバーシティ研究会＞  
大橋重子、西村美奈子  
＜Business Englishセッション 講師＞  
太田行信  
＜キャリアカレッジ修了生情報交換会 ファシリテーター＞  
大本郁子、鈴木清江